

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における経済情勢は、国内景気の緩やかな回復の動きがみられたものの、平成26年4月に実施された消費増税の影響が懸念され、先行きにつきましては、依然として不透明な状況で推移しました。

調剤薬局業界におきましては、平成26年4月に調剤報酬改定、薬価改定が行われ、当社にとって厳しい事業環境となりました。一方、当社がこれまで先行投資を行ってきました介護事業の成果が上がってきました。

このような状況の下で、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高6,544百万円(前年同期比16.7%増)、営業利益369百万円(同8.6%増)、経常利益347百万円(同8.0%増)、四半期純利益は238百万円(同35.3%増)となり、前期に比べ増収増益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、前期に新規出店およびM&Aにより加わった6店舗の寄与により、売上高は5,367百万円(前年同期比7.3%増)となりました。利益面では、平成26年4月に実施された調剤報酬改定および薬価改定による影響などから営業利益398百万円(同2.2%減)となりました。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、既存有料老人ホームの入居者が増加したことに加え、平成26年3月に有限会社三重高齢者福祉会(三重県)、同年4月に株式会社ハピネライフケア(鳥取県)の全株式を取得したことにより、売上高は812百万円(前年同期比137.7%増)、営業利益81百万円(同314.2%増)となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中で、積極的な営業活動を展開した結果、売上高346百万円(前年同期比42.4%増)、営業利益36百万円(同52.7%増)となりました。(内部売上を含む売上高は471百万円となり、前年同期比で34.4%増加しました。)

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高18百万円(前年同期比3.6%増)、営業利益12百万円(同38.6%増)となりました。

投資事業におきましては、効率的な運用成績となっております。

なお、セグメント間の内部売上高として133百万円を消去するとともに、全社における共通経費として159百万円を計上しております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は21,345百万円となり、前連結会計年度末と比較して3,615百万円増加いたしました。

流動資産の合計は9,495百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,679百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加672百万円、売掛金の増加482百万円、商品の増加325百万円によるものです。

固定資産の合計は11,849百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,936百万円増加いたしました。これは主に、建物及び構築物の増加1,135百万円、土地の増加453百万円によるものです。

負債合計は15,539百万円となり、前連結会計年度末と比較して3,523百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加274百万円、長期借入金(1年内返済予定を含む)の増加2,005百万円によるものです。

純資産合計は5,805百万円となり、前連結会計年度末と比較して92百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益238百万円によるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の業績予想につきましては、平成26年4月7日公表の数値から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。